

令和7年度 野向地区市長と語る会 議事要旨

- 日 時 令和7年9月30日（火）午後7時00分～午後8時40分
■場 所 野向町コミュニティセンター
■出席者 37名
■意見交換会でのテーマ：高齢化と人材不足について、防災・災害復旧について

1. 市政報告会

2. 意見交換会

1) 高齢化と人材不足について

事前質問	少子高齢化に伴う人口減少に加え定年の延長や高齢者の就業率も高くなっており、行政委員や地区の役員等地域を担っていただける方の選考に非常に苦慮している。この問題について解決の糸口があればご教示していただけないか。
回答	人口減少により地域活動が困難になると、地域活動の停滞を招き、住民間の連帯感の希薄化につながる。東日本大震災の事例からも地域のコミュニケーションが活発であると、災害時に住民の避難誘導や救助、避難所運営がスムーズに行われるといった報告がある。コミュニティ活動を持続可能とするためには、区間の連携が必要だと考えている。その一つとして行政協力員の見直しを検討したい。区長は各区1名ずつ選出されているが、市から行政協力員として区長に委嘱させていただいている。この行政協力員が複数の区を担うように、適正な人口規模に再編してはどうかと考えている。この見直しを進めるにあたり、市も地域に入って話し合いをしていきたい。また、コミュニティセンターでの情報提供や相談支援の充実を行い、地区にはにこにこ地域づくり交付金の活用により未来の担い手育成を図っていただきたい。

2) 防災、災害復旧について

事前質問	野向町は防災無線のある地区でも住宅が広範囲で音声が届かなくなったり、また防災無線のない地区もあるため、今後の戸別受信機の整備について説明をお願いしたい。また有線放送を整備している地区では、戸別受信ができるようになっているが、設備が老朽化しており、今後の更新の際に支援が得られないか伺いたい。
回答	防災行政無線を整備してから15年以上が経過しており、今年度から複数年かけて更新を進めていく。屋外拡声子局の更新にあわせて戸別受信機の導入を考えている。戸別受信機を導入することにより、大雨等により聞きづらい状況であっても屋内で放送を聞くことができ、また遡って確認ができる。導入方法に関しては来年に向けて検討をしたい。 有線放送設備の更新に係る支援に関しては、にこにこ地域づくり交付金の他、自主防災組織補助金を活用いただきたい。

3) 電源立地交付金の使途について

質問	区で有線放送設備を整備してから20年は経過しており、全体的に劣化してきている。見積を取ると全部取替で350万円、一部修繕で250万円かかるという。コミュニティ助成事業で申請したところ。勝山市では電源立地の交付金を受けており、それには新薬師発電所の電力量も算定に入っている。勝山市で電源立地交付金が2千万円あり、新薬師発電所は5,200kWの出力があり、比率で言うと薬師神谷で2～300万円は生み出されていると思う。交付金は図書館の人件費や水路修繕に充てていると聞いたので、これを地元で落とすよう考えてほしい。 マルツ電波が横倉に小水力発電所を作るにあたり、毎年200万円を地域振興として野向町に入れると言う。薬師神谷はどうして地元に使えないのか説明してほしい。
回答	電源立地の交付金のうち、今おっしゃったのは水力発電施設周辺地域交付金のこと。新薬師発電所を設置するにあたり、立地補助金というものがあり、約5千万円交付され野向町の施設整備に全て使用した。また、過去に北陸電力の子会社から寄付を4千万円もらっており、ここに地域づくり交付金の前身の交付金の際に、野向に上乗せして交付している。地元へ落とす分に関しては、今言った補助金や寄付を充てている。小水力発電で支払われるお金も野向町全体の振興のため区長会へという考えのはず。電源立地交付金に関しても市全体で使いたいのでご理解をいただきたい。コミュニティ助成事業に関しては、採択されるよう市も支援していきたい。

4) フルデマンドバスのすこやか停車について

質問	フルデマンドバスですこやかで止まってくれないという声が、地区サロンの利用者からあった。すこやかでは健康関連のイベントを開催していることから、ぜひお願いしたい。
回答	現在は、野向、荒土、北郷地区でフルデマンドバスを運行しているが、すこやかは村岡になるので、フルデマンドバスの地域外となる。フルデマンドバスの地域外では路線バスのルートを走るというルールになっている。令和9年4月以降は市内全域がフルデマンドバスになるので、すこやかまで直接行くことができる。

5) 横文字の使用について

質問	市政報告でも何度か横文字が出てきたが、高齢者にとって分かりにくい。最近は横文字が多すぎて理解できない。
回答	なるべく横文字を使用しないよう今後気を付けたい。

6) 中央公園の改修について

質問	中央公園を改修する際、公園の一角を駐車場にしてほしい。
回答	これから設計するにあたり、そういったご意見を聞く機会があるので取り入れていきたい。

7) 出生数の増加と移住定住施策について

質問	115プロジェクトの話の中で、出生数70～80名を維持するとあったが、増やすことも考えてほしい。また、今後移住者に期待したいといった話が出ているが、市として移住に対する支援はあるか。野向町に移住となってもコミュニティの問題でなかなか中に入りづらい状況もあると思うので、そういった支援も考えてほしい。他の市町村では、住宅団地を造成し新しく若い人を呼び込み、土地を無償にしたり、固定資産税を減免するような支援があると思うが、そういった計画はあるか。
回答	移住支援に関しては、ソフト、ハード両面から行っている。資料を作ってまちづくり会館に届けたい。また現在、応援金115を中心に、勝山が暮らしやすいまちだということを広く周知することを市役所全体で行っている。115プロジェクトでは、出生数と子どもの転入数の増加を目標としている。115プロジェクトを開始してから、子育て支援策をきっかけに転入した家族が5組ほどあり、効果が出始めている。住宅団地に関しては、中学校跡地利活用の中で検討していきたい。

8) 役員の成り手不足について

質問	団体の役員の成り手がおらず、いくつもの役を担っており、毎日非常に大変な思いをしている。皆さんも地域のために意識を持って、話が出たら受けていただきたい。
回答	大変な思いをされていると思う。なかなかストレートにお答えするのは難しいが、一つの例として、自主防災組織を複数の区で組織し活動するということもできる。そういったことを広く区長さん方にもご相談いただきながら、色々な方法を各地区で模索していただきたい。その際は市が各地区・区に入ってご相談にあがるので、議論をいただきたい。

9) 民泊事業者への指導について

質問	深谷にも民泊事業者が入り運営しているが、市は市内の民泊施設を全て把握しているのか。もしも地区の民泊で問題が起きた時、行政としてどこまで関与してくれるのか。特にごみの問題は市として事業者の説明してもらえるのか。
回答	民泊に関しては市から助成をしておりほとんど把握している。そういった立場から地域でのルールへの遵守はある程度指導できる。ただ、事業に関して制限することはできない。現在、市内の宿泊施設が致命的に不足している状況の中で、今後も増えていくと予想している。

10) 観光施策について

質問	勝山市は恐竜博物館があり非常にたくさんの観光客が来ているが、地元にお金が落ちていないという現状がある。野向町も含めて、観光客を市内に回遊してもらう施策はあるか。
----	--

回答

令和6年度の観光入込客数は290万人と、コロナ以前のピーク時より増加している。その内宿泊者数はたった12万人であった。市内には宿泊施設が圧倒的に不足している。ホテルの誘致や簡易宿泊所の助成も実施している。一方でジオターミナルと道の駅で5億円の売上があり、そういったところで市内にお金が落ちている。ただ、地元でお金を落とすということに限定すれば、宿泊観光客を増やすことが一番効率が高いのでそれを考えていきたい。市内を回遊することについては、長尾山、スキージャム、道の駅等から各地をPRしたり、魅力ある商品開発を支援したい。それについては観光まちづくり株式会社や商工会議所等と連携して、市内でお金を落とす仕組み作りに努めていきたい。